平成２６年度香川大学大学院修了式 学長告辞

本日、香川大学大学院から学位を授与された２８７名の皆さん、誠におめでとうございます。また、皆さんをこれまで支えてこられたご家族や関係者の皆様方にも、心からお慶びを申し上げます。

皆さんは、今日のこの日を迎えるまで、自らの学修や研究に日々研鑽を続けてこられたことと思います。時には苦しく、つらい日もあったかもしれません。しかし、今、皆さんのすがすがしい顔を拝見すると、いかにも自信に満ちあふれており、充実した大学院生活を送ってこられたのだと、確信しているところです。

さて、皆さんは、この大学院生活で何を得たでしょうか。もちろんそれは学修の成果であり、研究の成果であり、または、大切な友人であったり、尊敬できる教員や先輩でもあったりするでしょう。しかし、私の経験から言えば、最も

重要なものは、一つの真理に向けて、ただひたすら学修し、研究に打ち込み、真摯に探求をし続けた、その行為そのものだと思うのです。教員に指導を仰ぎ、友人と議論し、時には寝食を忘れて実験に没頭し、必死で論文を書き上げたその行為、その経験こそが、今、皆さんの自信となっており、これからもその経験が大いに役立っていくのです。

先ほど皆さんに授与された学位とは、大学院の教育課程を修了した単なる称号ではなく、皆さんが香川大学の大学院生活において、泣き、笑い、苦しみ、努力し続けた、まさにその証なのです。それをどうぞ誇りに思ってください。

さて皆さんは、これから社会でどのような活躍をされたいと考えているでしょうか。引き続き学問を追究されたい方、グローバルな分野で活躍されたい方、社会を変革させるようなイノベーションを追い求めたい方と、各々がそれぞれの夢を抱いていることと思います。社会では、

今までよりも、更に成果が問われ、一層厳しい評価を受けることになります。また、科学者として研究にいそしんできた皆さんの責務として、それぞれの体験から積極的に社会に関わり、その社会・市民が何に関心を持ち何に懸念を持っているか、耳を傾け対話を続けることも必要です。

毎日、次から次へとおびただしいほどの情報があふれるこの情報化社会にあっては、何が正しいのか、何をすべきなのかを、自らの力で考え、判断し、進んでいくこととなります。判断に迷うこともあるかもしれません。想像を超えるような困難に直面することもあるでしょう。しかし、その時にも、皆さんが大学院で培った経験が必ず役に立つはずです。

１９４０年代から５０年代にかけてイギリスの首相を務めたウィンストン・チャーチルは言っています。「未来のことはわからない。しかし、われわれには過去が希望を与えてくれる

はずである。」

　本日、香川大学大学院において学位を授与された皆さんが、夢と希望と大きな自信を持って、この２１世紀社会で活躍されることを心から期待し、私からのお祝いの言葉といたします。

平成２７年３月２４日

香川大学長 長尾 省吾